マイバッグからつながるエコ

一般社団法人
あきた地球環境会議
Conference of Earth Environment from Akita

http://www.ceeakita.org/

本冊子は概要版です。
調査報告書をご希望される方は
こちらまでお問い合わせください。

TEL･FAX：018-875-8548
E-mail：info-ceea@ceeakita.org

Ceeaの取り組みにご協力ください！

循環型社会形成へ向けた 新たなマイバッグ使用 推進のための調査報告書

概要版

地球環境基金
平成23年度
地球環境基金助成事業

一般社団法人
あきた地球環境会議
Conference of Earth Environment from Akita

提言 消費者へ向けて

対象
- ●40代以上の女性
- ●週3回以上
- ●マイカーでお買い物

- ●レジ袋削減・マイバッグ推進の主役であることを認識し、これに関心を持ち続けること。
- ●自分なりにレジ袋削減の工夫をし、実践すること。

提言 事業者へ向けて

対象
- ●スーパーマーケット
- ●生協
- ●売店

- ●県内や県内各地域のレジ袋削減・マイバッグ推進の大きな流れを生み出す立場であることから、レジ袋削減・マイバッグ推進の議論の場に積極的に参加し、意見を示すこと。
- ●海外や国内には事業規模や形態に応じた様々な取り組みが存在することから、積極的に情報を取集し、主体的に実践すること。

提言 自治体へ向けて

対象
- ●秋田県
- ●市町村

- ●域内の積極的もしくはユニークな取り組みを行っている事業者を目立たせるような普及啓発を展開すること。
- ●これまでの単一の自治体による域内への「呼びかけ」から、周辺自治体を含む広域的な取り組みとしての「呼びかけ」を実施できる体制を構築すること。

秋田県、市町村別には以下を提案します。

＜秋田県＞

自治体同士が横断的に意見や情報を交換ができる「場」を創出し、ここでの意見や集約された情報を「レジ袋削減・マイバッグ推進運動協定」参加事業者と共有することを提案します。

＜市町村＞

自治体意見交換会に参加し自らの意見を示した上で、市町村間の連携の方向性を模索し、広域的な取り組みとして消費者・事業者への参加・協力の呼びかけを行うことを提案します。

循環型社会・低炭 素社会へ向けて・・・

消費者・事業者・自治体の意向・嗜好性の調査を実施しました！

レジ袋削減・マイバッグ推進策

レジ袋無料配布中止（有料化）
効果は絶大、全国的にも事例多数！
↕
みんな賛成なの？秋田県ではうまく機能するの？

マイバッグ
何個も持ってて、使っていない!?
何回も使わないと
レジ袋の方がエコ!?
↕
本当にエコな使い方が出来てるの？

マイバッグ持参でポイント
消費者にはお得
↕
事業者（スーパー）は
賛成なの？

有料化にばかり議論が集中。
もっと他に方法はないのか？
もっとうまく機能させる方法はないのか？

消費者・事業者・自治体への調査を通じて、以下をまとめました！

- 「究極のマイバッグ」及び「共有リユースバッグ」の受け入れ易さや推進へ向けた方策
- 消費者・事業者・自治体へ向けたレジ袋削減・マイバッグ推進のための提言

CEEAの提案！ 究極のマイバッグ

CEEAの提案！ 共有リユースバッグ

既存のレジ袋削減・マイバッグ推進策

CEEAの提案！ 究極のマイバッグ

形　生地　色　価格

消費者やスーパーを含めたみんなが「便利で、持ち運びたくなる」形・色をした理想のマイバッグを作成。これを広めるシステムです。

CEEAの提案！ 共有リユースバッグ

お買い上げ商品を入れるバッグを、消費者同士で共有することにより、再利用（リユース）するシステムです。

アンケート調査概要

消費者
687名

40代以上が	83%
女性が	84%
週3回以上のお買い物	77%
自家用車でお買い物	78%

店頭にて、意向調査を実施

事業者
20事業所
（回答率61%）

自治体
24自治体
（回答率92%）

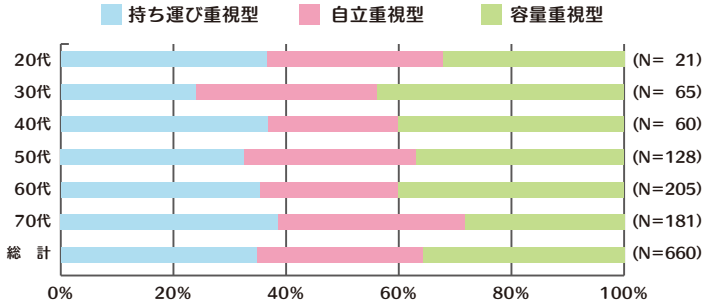
意向調査票回収

究極のマイバッグ

調査 形状

便利で使いやすいと感じる「形状」を調査。

消費者には①「詰め込み重視型」②「容量重視型」③「持ち運び重視」の3つの集団が見い出されました。

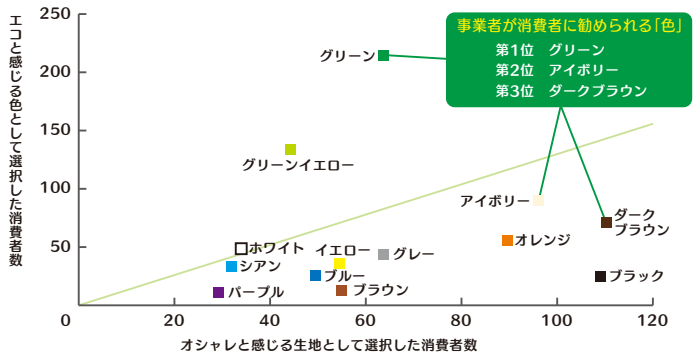


40代以上の消費者には自立性・容量が重視されていました。

結果 『詰め込みやすい自立型』が最もふさわしい！

調査 色

「オシャレ」と「エコ感」の観点で色について嗜好性を調査。

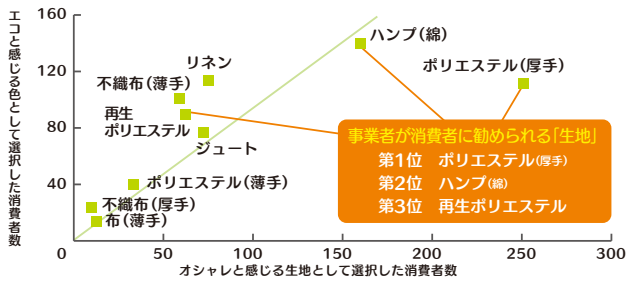


消費者にとって両者を満たす色である「グリーン」は、事業者が消費者に勧められる色についても最上位でした。

結果 『グリーン』が最もふさわしい！

調査 生地

「オシャレ」と「エコ感」の観点で生地について嗜好性を調査。

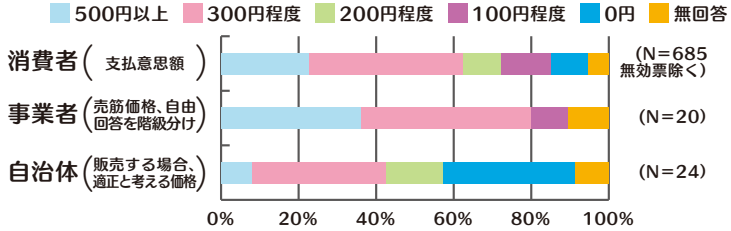


消費者にとって両者を満たす生地として①「ハンプ(綿)」②「厚手ポリエステル」が多数の意見を占めた。これらは、事業者が消費者に勧められる生地についても上位でした。

結果 『ハンプ』or『ポリエステル(厚手)』がふさわしい！

調査 値段

支払意思額や売れ筋価格の調査。



消費者・事業者の結果からは300～500円が適性と考えられましたが、究極のマイバッグとしてより多くの合意を得るには…

結果 『300円以下』が有力！

※自治体については、販売する場合、適性と考える価格調査

まとめ 今後の取り組みについて

これまでの調査から、右のようなマイバッグが「究極のマイバッグ」と言えそうです。
今後は、これを実際に作成し、消費者モニター調査やモデル事業などを通じて、利用率、レジ袋削減効果、消費者の環境意識への影響、経済性の評価を行っていく予定です。

消費者モニター・モデル事業所にご協力ください。

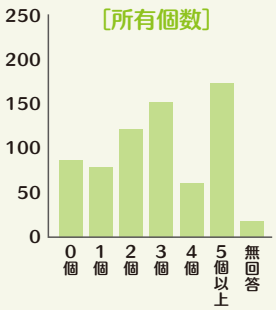
共有リユースバッグ

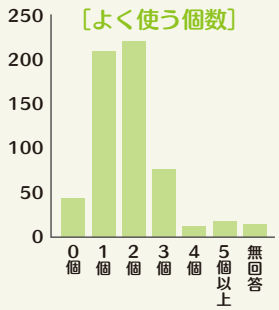
調査 使用している・使用していないバッグの個数

●マイバッグの所有個数は、多い人で**10個**以上。

●全体の平均所有個数は**3.3個**となっていた。

●主に利用するマイバッグの個数は平均で**1.7個**。





[使われていないマイバッグ個数の算定]

秋田県総世帯数※×(平均所有個数-主に使用する個数)=391,166世帯×(3.3-1.7)=625,866個

秋田県のマイバッグ賦存量　約626,000個

※秋田県の人口と世帯(月報)平成23年11月1日現在

事例 こんな取り組みがあります[福岡県]

バッグを店でレンタル

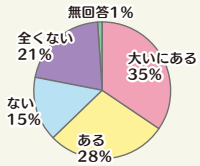
福岡市西区内の住民と生協を含むスーパー4店舗が協力して、エコバッグの無料貸し出しを開始。家庭で不要になったエコバッグを協力店で回収し、地域内の協力店舗なら「どこで借りてもどこでも返せる」仕組み。マイバッグをうっかり忘れたときにも使え、関心のない人への意識啓発にもり、協力店でマイバッグ持参率は増えてきています。

福岡工業大学「ISOバッグ」

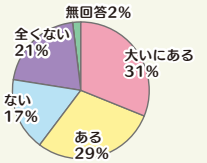
大学内でレジ袋削減運動「ISOバッグ」。大学売店のレジ袋の代わりとして、繰り返し使用できるISOバッグ(マイバッグ)を使ってもらい、使用後は大学各所に設置してある回収台に返却してもらうシステム。ISOバッグの利用によるレジ袋削減率は平均で1割程度であるものの、間接効果(シールで済ますなど)を加味するとレジ袋削減率は98%にも及んだとの報告されています。

調査

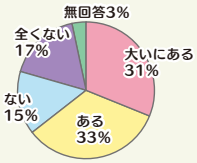
消費者の声



他人が使ったバッグへの抵抗感

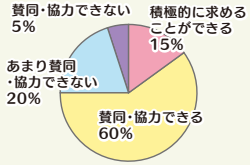


食品などへの衛生面についての不安

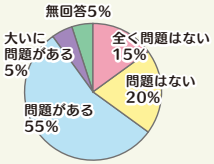


リユースバッグを借りたり戻したりする手間

事業者の声

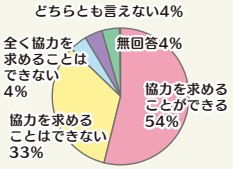


共有リユースバッグの消費者への協力呼びかけについて

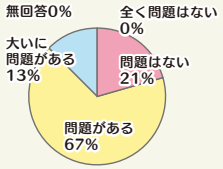


食品の衛生面についての不安

自治体の声



共有リユースバッグの住民への呼びかけについて



衛生面について

事業者の賛同・協力姿勢が高い。消費者、事業者、自治体とも「衛生面」への不安を感じていることが明らかに。

取り組みを広げるために必要な工夫

●共有リユースバッグを取り出すボックスと、回収ボックスを分ける
●フック等にかけてリユースバッグが見えるようにする
●汚れがなく清潔であることを示すラベルの利用
●共有リユースバッグでポイント付与　など

まとめ

事業規模・形態によってはおススメ！！

会員制のスーパー、大学や病院の売店などでは、上手く機能する可能性があります。
ただし、「衛生面への不安」対策、「ルール把握」策の徹底は必須。

モデル事業所になりませんか？

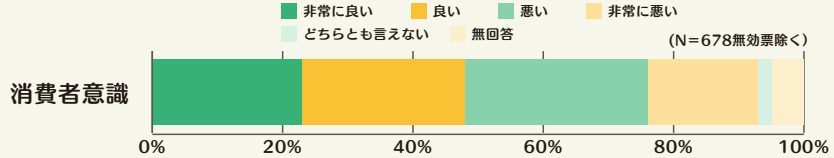
有料化に対する意識

有料化以外にも
ポイント制や声かけなどに
対する調査も実施しました。
興味のある方は、報告書
本編をご覧ください。

調査

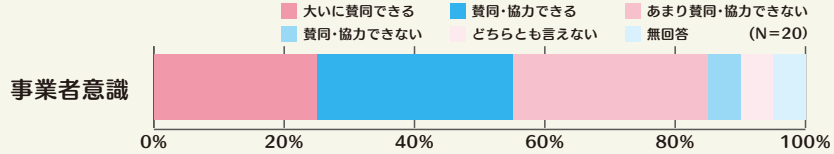
消費者の声

有料化に対する賛否は半々。レジ袋と生活の密着性も高く、消費者の理解を得るための工夫がより求められる結果となりました。



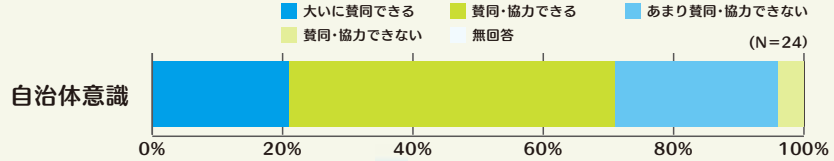
事業者の声

半数を超える事業者に有料化への賛同・協力の姿勢が見られました。
ただし、顧客流出や売り上げの減少等のリスクの前に主体的に有料化を推進することへの抵抗感が強く、これを回避するために「行政のリーダシップ」や「一斉実施」への期待が伺えました。



自治体の声

7割を超える自治体に有料化への賛同・協力の姿勢が見られました。ただし、市町村単独での取り組みには限界があるとの意見もあり、市町村間の意見交換や広域連携の必要かもしれません。
また、単なる「呼びかけ」から、(有料化に限らず)域内で頑張っている事業者を「目立たせる」ような普及啓発の有効姿勢も指摘されています。



事業者 ●主体的に取り組む姿勢を打ち出す!!

自治体 ●主体的に取り組む事業者を目立たせる工夫を！
●賛同自治体の連携による広域的な呼びかけ

コラム

声かけの内容を一工夫 ローソン 京都大学売店

ガムなどの少量のお買い物の際に、従来「袋にお入れしましょうか」とうかがっていたのを、「このままでよろしいですか」に声かけ内容を変更。お客さまは「はい」と答えればレジ袋を断れるようになり、変更以降、レジ袋をお断りになるお客さまが着実に増えています。

あきた地球環境会議の「新たなマイバッグ」の取り組み

究極のマイバッグ作製

究極のマイバッグ作製チームを組織

消費者モニターの実施

■試作品を作成し、「使い勝手」を調査

モデル店舗での販売(事業採算性の評価)

モデル店舗との連携

「究極のマイバッグ」販売

■販売量の推移を記録
■レジ袋経費関連のアンケートの実施

「新たなマイバッグ」導入キャンペーンの展開

マイバッグ de クルーズ
(究極のマイバッグを使用した一斉買い物)

■協力主婦の募集
■モデル店舗で実施
■使用頻度に関するアンケート(定着性の評価)

テレビコマーシャル
製作・放映

■「究極のマイバッグ」PR
■モデル事業店での「究極のマイバッグ」利用を呼び掛け

是非、ご協力ください!

共有リユースバッグに興味のある方、実施を検討している方、是非ご相談ください。

「新たなマイバッグ使用」推進のための検討委員会

秋田大学 名誉教授	菅原 拓男（座長）
国際教養大学 教授・図書館長	勝又 美智雄
秋田県生活環境部 温暖化対策課 技師	伊多波 健
マックスバリュ東北株式会社 環境社会貢献部 部長	山本 まゆみ
株式会社アマノ 本部 総務部 チーフ	石橋 学
秋田県地域婦人団体連絡協議会 会長	小玉 喜久子
社団法人 秋田青年会議所 常任理事 未来創造室長	渡辺 毅
秋田市環境部 環境都市推進課 課長	相場 修治
由利本荘市市民福祉部 生活環境課 課長	真坂 誠一

●監修（報告書概要版）： 川北 秀人（IIHOE「人と組織と地球のための国際研究所」）